

東レ労働組合愛媛支部

木原弘樹

平和行動に参加して、沖縄の今と昔を知ることになった。沖縄戦の痛み、今なお続く米軍基地問題が、深くその地に刻まれていることを現地に赴くことで、肌に感じられた。

平和行動の初日、この日は、沖縄の今について考えさせられる日になった。ここで知った事実、それは、本土では報道されることのない、米軍による事件・事故が、日常的に多発しているということであった。このような事件・事故に対して、日米地位協定の存在により、多くの不祥事が責任を問われることなく処理されているとのことだった。沖縄は同じ日本国民でありながら、不公平な負担を現在進行形で抱えている。メディアを通して、見たり聞いたりするだけでは理解することのできない実情が、生の空気・声に触れることで、リアルとして飛び込んできた。

二日目は「ピースフィールドワーク」として、沖縄戦の戦跡を巡った。沖縄の昔を知る一日であった。中でも印象に残っているのが、「ひめゆりの塔」である。当時を綴った手記には、ひめゆり部隊が経験した生々しい事実が隠すことなく記録されていた。生きる時代が違っただけで、こうも残酷で悲惨なのか、一瞬にして「怖い」という感情に満たされた。今がどれだけ平和でどれだけ裕福か、今こうして何不自由なく生きられることに、只々感謝するしかなかった。

平和行動の日程を終えて、強く感じたこと、それは、米軍基地と生活とが交えることなく共生しているということだ。現状を目の当たりにして、基地問題はゼロかイチかの議論ではなく、本当の意味での共生にどれだけ近づけるかなのだろう、そういった印象を受けた。そのためにも、「米軍基地の整理・縮小」「日米地位協定の抜本改革」を、真剣に求めていかなければならないのだと。連合組合員の一人として、私も平和運動を通して応援していきたい。最後に、平和行動に参加する機会を与えていただいた関係者の皆さんに、感謝申し上げます。

以上

ハリソン東芝ユニオン

村上 清忠

私は、連合の平和行動に、はじめて参加させていただきました。また、沖縄の地もはじめて踏ませていただき、大変感謝しています。

到着した当日の 2011 平和オキナワ集会では、日米地位協定の抜本的改定について、討論を聞きました。日米地位協定については、新聞やニュースなどで多少の事は知っているつもりでしたが、討論を聞いていると全く知らないことが多かったと改めて感じました。また、沖縄が日本国土の 0.6%ほどしか占めていないのに対し、日本にあるアメリカ軍基地の 75%ほどが沖縄に集中していることには驚きました。

2 日目のピーす・フィールドワークでは、戦跡コースで南部戦跡を巡りました。アブチラガマでは、戦争による惨事を NHK で見たことはありましたが、ガマに入って説明を受けたことで、戦争の惨事を改めて実感しました。続いて、ひめゆりの塔では、負傷した兵や住民を看護した「ひめゆり学徒隊」の女学生が悲惨な状態の中、懸命に看護し戦ったことを学びました。そして、平和祈念公園では、平和の礎の沖縄戦線で犠牲になった国内外すべての人々の名前が刻まれていることに驚きました。当日、訪れていた人の中には、花束やお線香などを捧げている姿を見ました。今もなお戦争は続いているのだと思い知らされました。後世に戦争の教訓と平和について感心をいだかせる学びの場は必要ですし、今の私たちのできる重要なことだと想いました。

最後に、私は、この平和行動に参加させていただく以前は、平和と言えば「広島」が当たり前のように浮かんでいましたが、今回の平和行動 in 沖縄に参加して、「平和」に対する考えが広がりました。過去においては、世界中の国で戦争による惨事があり、また、現在においても争いが起きており、沖縄で学んだようなことが起きることを考えると痛ましく思います。また、昔、「人類みな兄弟」と言う言葉があったことを思い出し、世界中の人々が手を取り合い、分かち合うことができ、争いのない日が本当に来るのだろうか?と考えています。現代の私欲によって形成されている世の中では、私が生きている間には、「恒久平和」は訪れないだろうと思いますが、一日でも早く「恒久平和」が成されることを望みたいです。

以上

東芝 EI コントロールシステム労働組合

執行委員 福田裕樹

6月23日～24日にかけて、平和行動 in 沖縄に参加させていただきました。実際に沖縄の地に足を踏み入れたことで、これまで知ることのなかった戦争の悲惨さ、今現在の沖縄の状況を学ぶことができ、恒久平和の実現を目指さなくてはいけないと再確認しました。

まず、初日に「平和オキナワ集会」に参加しました。2時間におよぶ集会では様々なことを心に語りかけてくれました。日本での戦争といえば、広島・長崎の原爆に対して強い印象がありますが、この沖縄でも非常に多くの住民が犠牲となったということを知りました。

2日目は連合沖縄青年委員会メンバーのガイドによる案内で、フィールドワークに参加し戦跡を周りました。アブチラガマ、ひめゆりの塔、平和記念公園、嘉数高台を1日かけて見学しました。

1番印象に残ったのはアブチラガマで、自然に出来た洞窟は、戦時中に避難壕として使われ、壁や天井には火炎放射や爆撃による攻撃の後も黒く残っており、当時の戦争の悲惨さを物語っていました。

その後、「米軍基地整理・縮小を求める行動」として、沖縄県庁前から牧志公園に向けて、デモ行進が開催されました。このフィールドワークを通して学んだことを振り返り、未来の沖縄の平和を願いながらデモ行進を行いました。

今回の平和行動で沖縄戦の様々なことを学ぶことができました。今回見たこと聞いたことを無駄にしないよう、戦争で犠牲になった人々の為にも、またこれから誕生していく命の為にも、戦争という過ちを二度と繰り返さないような平和な世界を残していく為にも、平和行動 in 沖縄に参加した者として、この思いを多くの人に広げて行かなくてはならないという思いを強くしました。同時に、沖縄戦で多くのものが失われたのと同じように、戦争が繰り広げられた日本各地、また世界の国々でも同様のことが起こっていたということを見過ごすことなく、平和について考えていきたいと思いました。

JAM 井関農機労組松山支部

大塚和洋

6／23～26日の日程で「連合2011平和行動 in 沖縄」に参加させていただきました。

2011平和沖縄集会が那覇市民会館で行われ、シンポジウム「日米地位協定の抜本的改定を求めて」や「平和式典」があり、連合広島ヘピースリレーの後、沖縄からの平和アピール（案）が採択されました。

「糸数アブチラガマ」という自然洞窟を利用した防空壕では、米軍の攻撃で爆風により吹き飛んだ一斗缶が岩盤に張り付いている光景や天井が今でもすすで黒くこげているところが残っており、戦争の恐ろしさを痛感しました。

「ひめゆりの塔資料館」には発掘された医療器具や遺品などが展示されており、学生まで戦争に駆り出され、負傷兵の手当てにあたっていた様子を知ることが出来ました。

平和記念資料館に展示してある魚雷や爆弾などは現在でも、工事現場などから出てくることもよくあるとの事で、当時使用された砲弾などは20万トンとみられており、そのうち1万トン近くの不発弾があり、戦後、処理をしているものの、未だに2300トンくらいが埋没していて、完全に処理するには70～80年ほどかかるそうです。

普天間基地は住宅街のすぐ近くにあり、嘉数高地の「嘉数高台公園」の頂上から2本の滑走路を見ることが出来ました。

際に飛んでいく戦闘機を見ることは出来ませんでしたが、墜落事故などは後を絶たないそうで、住んでいる人にとっては、騒音・危険と隣り合わせの生活で大変だと思いました。

最後に、県庁前県民広場から国際通りを歩いて牧志公園までデモ行進を行いました。今回、僕は平和行動に参加するのが初めてだったので、平和行動がどういったものかを杉本事務局長に丁寧に教えてもらい、沖縄平和行動で、命の尊さを再認識することが出来ました。

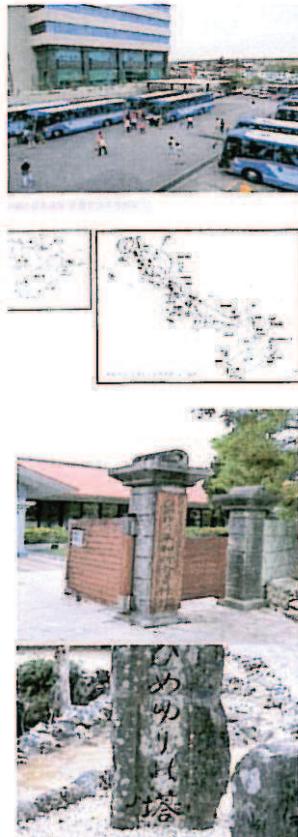
2011「平和行動in沖繩」 參加感想文

JP労組東予西支部
梅園 真人

今回の沖縄平和行動に参加させていただいてつよくおもったことは、一見日本は平和大國に思われるが、米軍基地周辺に住んでいる方々に關しては平和なくらしが守られているとはいがたく、同じ日本人として無関心であつてはならないということであり、平和というものがあたりまえのものととらえている自分を改めるいいきっかけとなりました。



初日、那覇の市民会館でおこなわれた平和集会では全国の連合の組合員とともに現地の基地問題や世界大戦時代からの歴史について切実な内容の講和を地元の知識人の方々から聞かせていただき、浅くではありますが理解することができ、おかげで翌日のピースファイールドワークに意識を持つて臨むことができました



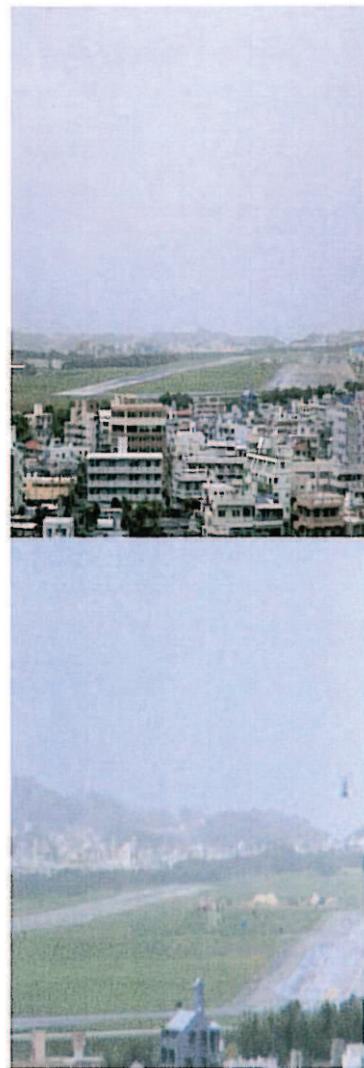
バスツアーによる視察箇所はどれも印象深いものでした。最初に訪れた糸数アブチラガマ（玉城村糸数にある自然洞穴）では実際に中に入つて当時の日本の傷病兵やひめゆりの学徒隊の過酷な状況を少しでも感じることができました。恐らく想像絶するおもいをかれらはしたのだなと胸が痛みました。こんなまつ暗な場所で薬品もたいてなく、麻酔なしの手足切断による手術しかできなかつた現実、おきぎりにされた重症患者。まさに極限の世界がここにあつたのだとおもいます。その後バスでひめゆりの塔及び資料館に赴きました。そこで知つたのは犠牲になつた学徒隊が本当にまだあどけない女学生たちということです。写真に写つていた笑顔の彼女らが大人たちの都合で死に追いやられた。それも一生懸命に負傷兵を命がけで看護した彼女らが最終的にほつたらかしにされ逃げまどつたあげく百名以上の尊いのちが失われたのだと思うとあまりにもやるせない気持ちになり知らない間に時間がたつてしまいました。そのあとわれわれは沖縄県で最初の慰靈碑である魂縛の塔にむかいました。ここは住民、軍人、アメリカ人わけ隔てなく犠牲者を祀つてい

るというところに強く惹かれました。

次の場所、平和祈念公園では平和の礎に刻まれた無数の戦没者の方々の名前の多さに圧倒されました。



更に歩をすすめていくと丸い噴水のようなモニュメントがみえてきました。二十三日の「慰靈の日」にそこに平和の火がともされるそうですがぜひ見たかったです。時間がおしゃべりで資料館をゆっくり見れなかつたのはとても残念です。そして次の目的地嘉敷高台ではまさに今問題になつてゐる普天間基地をおがむことができました。本当に民家の中に飛行機が墜落してもかまわないと米軍は思つてんじやないかと思えるほど住宅に囲まれて近接されており、その騒音は残念なことに基地側の平和活動の盛んな時期を警戒しての自肃のため耳にすることはできませんでした。ヘリが一台だけ基地に戻つていくところしか目にできなかつたです。



基地に出て行ってほしい人がほとんどでしようが、そこで働いてまたそこの恩恵をうけて日々のくらしをたてている県民の方もいてらっしゃるわけで解決の糸口をみつけるのはほんとうに難しいのだろうと思います。

そして新都心をぬけてバスはデモ行進の出発点となる県庁前の集会場へとむかいました。あいにくの雨にみまわれながら、各県の連合の組合員の方たちがそれぞれの旗をかげてあつまっていました。沖縄を代表する民謡歌手のかたが雨にもまげず三線をかきながらしてうたいあげ、われわれを盛りあげてくれる姿をみて非常に感動しました。知事たちの演説のあと、いよいよわれわれはシュプレヒコールあげながら国際通りをぬける歩みをすすめていきました。およそ2キロのデモ行進は本当にいい経験をしたとおもいます。報告は以上になりますがこれからも平和の大切さを忘れないようにまたそれに対する考え方を深め、ひろめていきたいとおもいました。なにより人を思いやる気持ちが自分にとつて平和活動の第一歩だとおもいます。ありがとうございました。



2011 平和行動 in 沖繩

参加感想文

j p 労組東予西支部
片岡 宗嗣

今回、連合の沖縄平和行動に参加させて頂きとても良い経験になりました。

こういった活動に若いうちから参加することでこれからの自分の人生において考え方や物を見る視野が広がったように思えます。

一日目には、集会に参加させて頂き沖縄の現状を知ることが出来ました。

自分たちが知らないことも多く同じ国に住んでいても他人事のようで他県に住んでいる自分たちの無関心差が浮き彫りになっていたように思えます。特に自分が考えさせられた物が沖縄には米軍基地問題です。あの島の面積に日本にある米軍基地の七割以上が建てられていることにとても驚きました。周囲の住民の方々は騒音や墜落事故に悩まされておりやはり当然という言い方はおかしいかもしませんが基地の移転を強く思つてゐるようです。しかしそれと同時に基地内で働いている日本人の方も多く基地が移転してしまうと職を失うことになりそういう問題もありとても難しい問題なのだとということを考えながら集会に参加していました。

二日目は太平洋戦争の戦跡を見て回りました。初めに糸数アブチラガマに生き実際にガマの中に入りましたが狭く、暗く、とても人が住めるようなところではありませんでした。このあとひめゆりの塔や魂魄の塔、平和祈念公園と回ったのですがどこの資料館にも戦争当時の写真や生き残った人たちの体験記などがありそれらを見るたびに戦争がとても悲惨なものでこれからそれをおこしてはならないと強く感じさせられる内容でした。若いうちにこういったものを見ておく必要があるとも思いました。平和祈念公園には多くの戦死者の方々の名前が刻んである石碑があり今も刻まれ続いているそうです。名前が刻まれなくなる日が早く来てほしいものです。

最後にデモ行進に参加しました。このことで少しでも沖縄の方々の力になれると幸いです。